

オリンピック・パラリンピック開催に向けての これまでの取組の成果と 今後の千葉市経済の活性化に向けて



オリンピック・パラリンピック 開催に向けてのこれまでの 取組の成果

新型コロナウイルス対策

アスリート

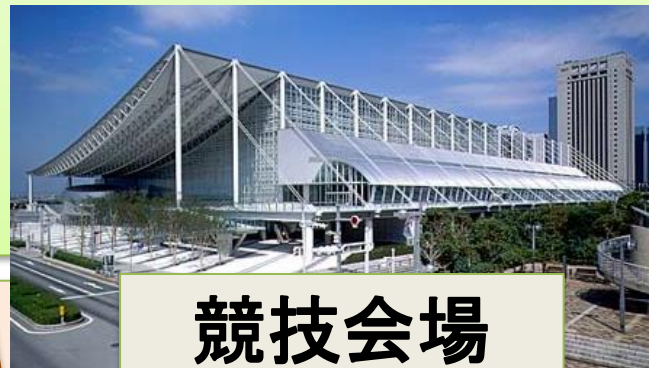
選手村

- 活動計画書、コロナ対策責任者による行動管理
- 入国前、入国後の検査（アスリートは原則毎日）
- 公共交通機関の利用は原則不可
違反者には、ペナルティ

大会関係者
（メディア等）

ホテル

専用バスなど



競技会場

専用バスなど

公共交通機関

観客

自宅・
ホテル

- 観客数の上限を「収容定員50%以内で1万人」
- 入場時の検温、会場内での常時マスク着用、大声の禁止
- アナウンス等による混雑回避、分散退場等を定める
- 会場内での飲酒禁止
- 直行直帰の要請 など

※オリンピックのみ
（パラリンピックは未定）

千葉市では、大会の成功に向けて、「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉市行動計画」を策定し、4つの方向性を軸に取組を進めるとともに、その成果が千葉市の財産（レガシー）となるよう取り組んでいきます。

方向性1 大会の成功を実現する

幕張メッセ7競技

聖火リレー

バリアフリー化
の推進

受動喫煙対策

機運醸成

ボランティア文化
の醸成

方向性2 スポーツ文化を普及し発展させる

パラスポーツの推進

方向性3 多様性に対応した共生社会を実現する

オリパラ教育の推進

LGBTの理解促進

方向性4 千葉市の魅力を高め、集客・宿泊を最大化する

観光・インバウンド

シェアリングエコノミー

文化プログラム

1-1 市内開催競技等について

東京2020大会スケジュール（幕張メッセで7競技開催！）

オリンピック3競技

フェンシング
7/24(土)～8/ 1(日)



テコンドー
7/24(土)～27(火)



レスリング
8/ 1(日)～ 7(土)



1都市で7競技開催は、
都内を除き最多！！

パラリンピック4競技

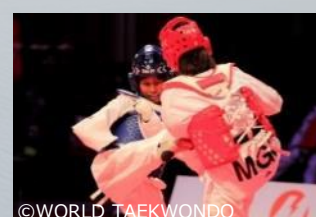
ゴールボール
8/25(水)～9/ 3(金)



シッティングバレー
8/27(金)～9/ 5(日)



テコンドー
9/ 2(木)～4(土)



車いすフェンシング
8/25(水)～29(日)



オリンピック聖火リレー 点火セレモニー

7月2日(金) 幕張メッセ駐車場(県内実施3日間の内、2日目)

県内全区間の聖火ランナーの走行を中止し、セレブレーション会場にて無観客で実施

パラリンピック聖火リレー 8月18日(水)

区間	出発予定地	到着予定地
1	青葉の森公園芸術文化ホール	千葉寺駅南口付近
	出発式: 青葉の森公園芸術文化ホール玄関前	
2	千葉市蘇我スポーツ公園駐車場	花の駅そが付近
3	千葉県庁	千葉神社
	ミニセレブレーション: 千葉県庁前ロータリー	
4	旧東大生産技術研究所千葉実験所前交差点	敬愛学園前交差点
5	千葉ポートアリーナ	千葉ポートパーク
	出立式: 千葉ポートタワー前広場	

・県内全54市町村がそれぞれ独自の方法により起こした火を一つに集めた「千葉県の火」により、競技会場のある千葉市内(5区間)で聖火リレーを行う予定です。

・千葉市は、特別史跡加曽利貝塚において、地元の子どもたちによる縄文時代の火起こしによって「千葉市の火」を採火します。

【海浜幕張駅前広場】

- ・エレベーター、エスカレーター等 新設



【駅から会場までの歩道】

- ・交差点部の歩道の段差解消
- ・視覚障害者誘導用ブロックの敷設替え



1-4 受動喫煙対策

- ・国際オリンピック委員会（IOC）は、「**たばこのない五輪**」を推進
- ・東京2020組織委員会は、**競技会場の敷地内を全面禁煙**（来場する全ての人を対象）

千葉市受動喫煙の防止に関する条例

受動喫煙による健康被害防止のため、本市独自の規制を加えた条例を制定

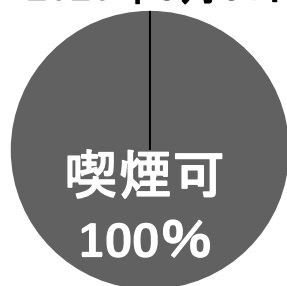
2020年4月1日から健康増進法の施行とともに規制開始

◎既存の小規模飲食店に対する規制のイメージ

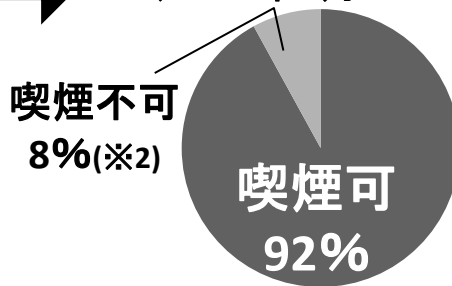


◎喫煙不可となる市内飲食店イメージ(※1)

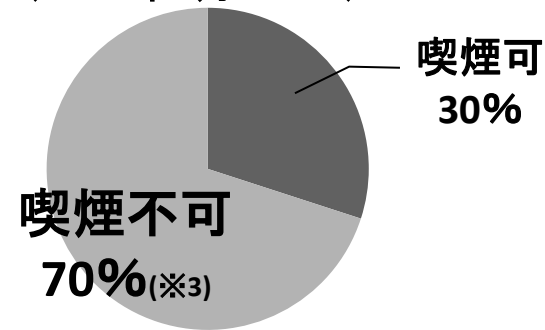
施行前の健康増進法
(～2020年3月31日)



施行後の健康増進法
(2020年4月1日～)



市条例をプラス
(2020年4月1日～)



※1 2017年度 飲食店の受動喫煙調査から推計

※2 客席面積100㎡超の店舗の割合

※3 客席面積100㎡超店舗と100㎡以下で従業員がいる店舗の割合（風俗営業法に該当する施設を除くと約66%）

(1)大会開催までの取組

PRイベント

【カウントダウンイベント】



※千葉県・一宮町・みんなで応援！千葉経済団体協議会、オリンピック・パラリンピック経済界協議会と連携

【親子三代夏祭り】



【JFEちばまつり】



バナー・車両ラッピング装飾

【千葉都市モノレールラッピング】 【バナー（海浜幕張駅周辺）】



※運行終了



【路線バスラッピング】

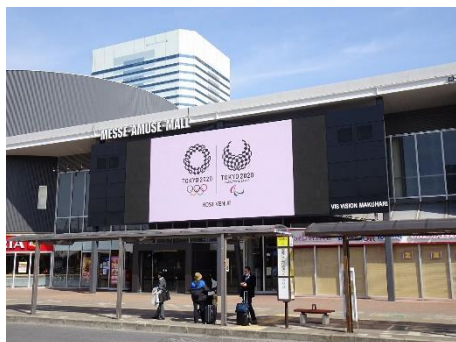


※運行終了

(2)大会開催期間中の取組

シティ装飾・CM放映

【CM放映】



海浜幕張駅北口大型ビジョン

【JR千葉駅東口ロータリー支柱装飾】



ラストマイル装飾

(海浜幕張駅～幕張メッセまでの観客動線ルート)

【南口駅前広場】



【JR千葉駅～モルレル千葉駅連絡通路 壁面装飾】 【バナー(中心市街地)】



※千葉県・千葉商工会議所連携

【南口駅前広場】



(1) ボランティア文化の醸成

令和2年度

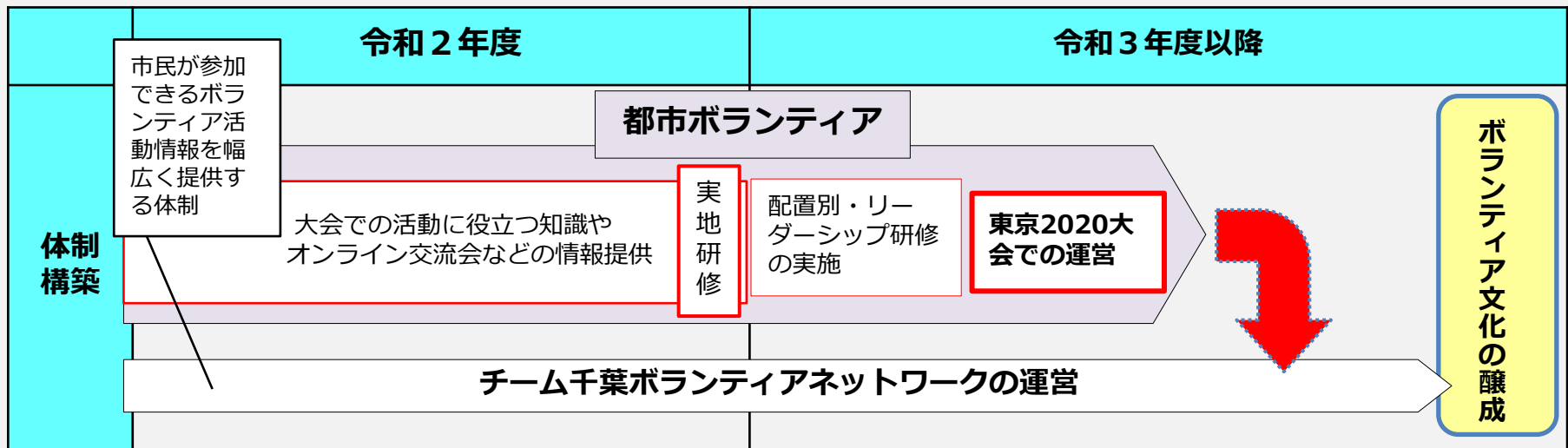
■ 都市ボランティアの育成・実践

大会での活動に役立つ知識やオンライン交流会などの情報を提供するとともに、実地研修を行い、活動場所における周辺施設等の確認を行うなど、東京2020大会での活動に向けた準備を行った。

令和3年度以降

■ 都市ボランティアの育成・運営・レガシー化

都市ボランティアの育成及び大会期間中の運営を行うとともに、大会終了後もボランティアを継続できるよう、チーム千葉ボランティアネットワークにおいてボランティア活動や研修情報などを発信し、活動を支援する。



(2) 都市ボランティア ～City Cast～

【活動者数（千葉会場）】：794人（R3.6.24現在）

- 大会期間中、幕張メッセやJR海浜幕張駅周辺で、大会・競技に関する情報提供や周辺施設・観光等の案内などを行います。
- 多くの方に「千葉にまた来たい」と思ってもらえるよう、千葉の「顔」として観客等をお迎えします。



<活動スケジュール>

日 程	内 容
2021（令和3）年6月	<各種研修（オンライン）> ・配置別研修 ・リーダーシップ研修
2021（令和3）年7月24日～9月5日	東京2020大会での活動

1-6 ボランティア文化の醸成

(3) チーム千葉ボランティアネットワーク



設立
目的 2017（平成29）年7月20日
千葉市や近隣自治体等のボランティア募集情報の提供を幅広く行う。
都市ボランティアが、東京2020大会終了後もボランティアを継続できるよう、
多くの市民が参加できる土壌をつくり、本市における**ボランティア文化の醸成
に引き継がれるレガシーを創る。**
＜登録人数：1, 885人（2021(令和3)年6月23日現在）＞

「ボランティア活動の場を求める人」と「ボランティアを必要とする団体等」の双方が
情報共有できるポータルサイトを活用し、ボランティア募集の情報発信とマッチングの
サポートを目指しています。
今後も、市民が参加できるボランティア活動の実施や情報提供を幅広く行っていきます。

(1)オリパラの成功に向けて

パラリンピックの成功なくして、オリンピックの成功はない！

○なぜ、パラリンピックか？

- ・ パラリンピックには、社会の認識を変える力がある。

➤共生社会への契機

○幕張メッセでのパラリンピック成功の鍵は？

- ・ 行政・大学・企業・団体・市民など都市の力の結集

➤都市の成熟度が試される

(2) パラスポーツをとりまく現状・課題

- パラスポーツに興味・関心がある人の割合
48.8% (2020(令和2)年)

【データ出典】 2020年度第10回WEBアンケート(2020(令和2)年12月)

- パラスポーツ大会を会場で観たことがある人の割合
4.5% (2016(平成28)年) ⇒ 12.8% (2020(令和2)年)

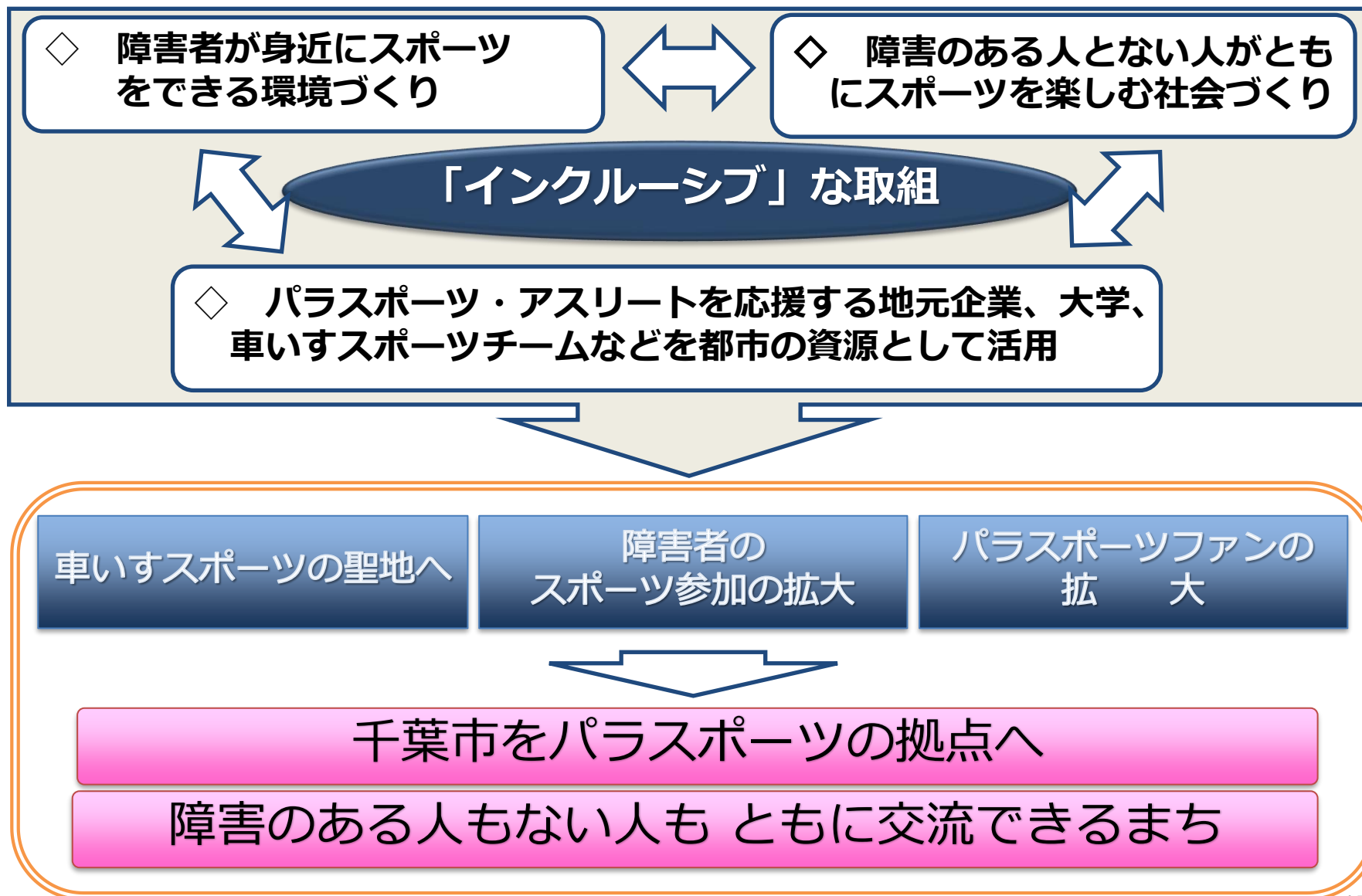
【データ出典】 H28年度第7回WEBアンケート (2016(平成28)年10月)
2020年度第10回WEBアンケート (2020(令和2)年12月)

- 1週間に1回以上スポーツ・レクリエーションを行う
障害者(成人)の割合
14.3% (2016(平成28)年度) ⇒ 17.3% (2019(令和元)年度)

【データ出典】 千葉市障害者計画・障害福祉計画策定に係る実態調査報告書
(2017(平成29)年3月・2020(令和2)年3月)

パラリンピックのレガシーとしてパラスポーツの推進に
係る取組を継続し、未来へ継承していく。

(3) パラスポーツ推進のレガシー



(4)障害者のスポーツ参加の拡大

①ちばしパラスポーツコンシェルジュ

専門のコーディネーターが、障害者一人ひとりに応じたスポーツやサークルを紹介します。

令和元年7月開設

＜お問合せ＞ ちばしパラスポーツコンシェルジュ
千葉ポートアリーナ3階 TEL:043-312-0605

②パラスポーツ振興補助金

市民団体等が主催する障害者を対象としたパラスポーツの教室や体験会などに係る費用を助成します。

令和2年5月 運用開始

③オープンボッチャ大会

年齢や障害の有無に関係なく、誰もが参加できるパラスポーツ「ボッチャ」の大会を開催します。

令和4年1月に第1回を開催予定



(5) パラスポーツファンの拡大 ～イベント、講座等の開催～

① パラスポーツフェスタちばの開催

障害の有無に関わらず、パラスポーツの魅力を体験・体感できるイベントを開催

(令和3年度は11月に実施予定)

これまで延べ2万人の参加者！会場では、障害者との活発な交流が見られました。



② パラスポーツ講座の開催

障害者アスリートなどによるパラスポーツの講座を、大学生を対象に開催し、競技普及の担い手を育成

これまでに計1,419人が参加

※2017(平成29)年度～2020(令和2)年度



(5) パラスポーツファンの拡大 ～産学官で連携したパラスポーツ大会の盛上げ～

パラスポーツ大会応援イベント「Go! Together!～みんな一緒に共生する未来～」

パラスポーツ競技大会を盛り上げ、多くの市民が観戦し、**パラスポーツファンが拡大**するよう
県・経済界・大学と連携して「オール千葉」で応援イベントを実施（これまでに4回実施）

代表例として

令和元年9月28日（土）・29日（日）幕張メッセで開催された
ゴールボールの国際大会（東京2020大会テストイベント）に合わせて開催！

延べ3,864人が参加

幕張メッセ会場

- ・車いすバスケ体験（東京ガス）
- ・ボッチャ体験（NTT）
- ・千葉グルメ（商工会議所等）
- ・切手アート（日本郵便）
- ・ジャズ演奏（商工会議所連合会）



イオンモール幕張新都心会場

- ・パラアイスホッケー・射撃体験
- ・ゴールボールぬりえ（イオン）



幕張新都心 （大会会場周辺）

体験ブースなどでは、学生ボランティアがイベント運営をサポート！



海浜幕張駅会場

- ・都市ボランティア活動
- ・オリジナルアイシェード
- ・大会応援フェイスペイント

JR千葉駅会場

- ・つるしびなづくり（商工会議所女性会）
- ・車いすバスケ体験等（商工会議所）
- ・ゴールボール体験等（学生団体おりがみ）



千葉都心

ベイスайдジャズ2019

- ・中央公園特設ステージ
- ・そごう千葉店1階広場 他

★車いすを使用して海浜幕張駅から幕張メッセまでのバリアフリー状況の確認を実施
（千葉商工会議所自由業部会主催）

幕張新都心と千葉都心との間の回遊性を創出し、一体的なイベントとして実施

(6)車いすスポーツの聖地へ

パラスポーツ競技大会の誘致・支援

市内で開催予定の大会

- ・ ジャパンパラ**車いすラグビー**競技大会（令和3年11月）
- ・ **車いすラグビー**日本選手権大会（令和4年2月）
- ・ 長谷川良信記念千葉市長杯争奪**車いすバスケットボール**全国選抜大会（令和4年3月）
- ・ 男子U23（23歳以下）世界**車いすバスケットボール**選手権大会（令和4年5月）

ポートアリーナでは、今後も多くのパラスポーツ大会が開催予定



3-1 オリパラ教育の推進



オリパラ応援メニュー
(オランダ編)

- 体育・保健体育の授業でパラスポーツ体験を全市立小中学校で実施
(車いすバスケットボール、シッティングバレーボール、ゴールボールを実施)
- 障害者アスリートによる学校訪問
(2019 (令和元) 年度中に全市立小中学校等への訪問達成！)
これまでに計20,338人が参加
※2016(平成28)年度～2020(令和2)年度
- パラリンピック関連題材・教材を使った道德等授業の展開
- 学校給食「オリパラ応援メニュー」の実施 など
- 市立学校171校が、大会組織委員会から
「オリンピック・パラリンピック教育実施校」として認証を受ける
(平成29年度) * 小学校111校、中学校55校、特別支援学校3校、高等学校2校



◆ 千葉市LGBT電話相談（千葉県内初） ※令和元年11月開設

日常生活においてLGBT当事者やその周囲の方が抱える悩みなどを解消することを目的に、「LGBT専用電話相談窓口」を開設しました。

○相談受付日時：毎月第3日曜日 午後2時から午後6時まで

◆ LGBTを知りサポートするためのガイドライン（千葉県内初）

～誰もが自分らしく生きることを認め合う社会へ～ ※平成30年3月作成

市職員や関係者がLGBTに関する正しい理解のもと、状況に応じた適切な対応ができるよう、本ガイドラインを作成しました。

◆ 千葉市パートナーシップ宣誓制度（千葉県内初） ※平成31年1月29日運用開始

LGBTの方や事実婚の方など、同性・異性を問わず、互いを人生のパートナーとする二者のパートナーシップの宣誓を証明する制度として、運用を開始しました。

「千葉市インバウンド集客プロモーションプラン」(令和元年度～令和2年度)

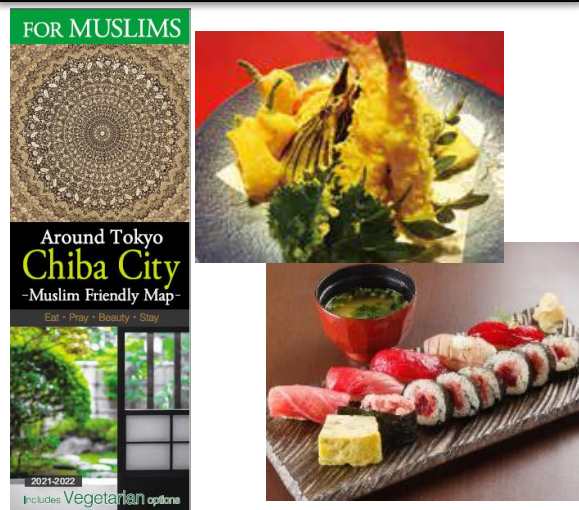
- 【施策1】本市の優位性を活かした海外プロモーションの展開
- 【施策2】外国人の視点から見た訴求力のあるコンテンツの活用
- 【施策3】ストレスフリーで滞在できる環境づくりの推進
- 【施策4】本市の強みを生かしたMICE・大規模イベントの誘致
- 【施策5】マーケティング・リサーチの強化

プロスポーツチームの交流を
活用したプロモーション
(施策1,2関連)



台湾のプロ野球チームと千葉ロッテマリーンズの交流試合開催時に、来場者に向けて本市をPR

多様な食の制限への対応
(施策3関連)



ムスリムやベジタリアン対応の店舗を開拓し、「ムスリムフレンドリーマップ」にて紹介

「訪日外国人向け観光ボランティアガイド」の養成・活用
(施策3,4関連)



MICEで来訪した外国人に対して、市内の街歩き観光ガイドを実施

(1) 千の葉の芸術祭

本市がもつ魅力的な文化力を広く発信するため、新たな文化プログラムとして、千の葉の芸術祭を開催。

コンセプト

キーワードは **変化/CHANGE**

アートでつながる アートでつなげる 自由なアートが人と社会を変えていく

企画概要

企画名等	概 要	会 場
写真芸術展	第一線で活躍する12名のアーティストが、市の資源(市民・場所など)を被写体にした作品など、メッセージ性の高い作品を制作・展示	市美術館、千葉公園など
体験・創造ワークショップ	本市が実施してきたワークショップ「ななめな学校」を、子どもだけでなく、大人も対象に加えるなど、拡充し開催	生涯学習センターなど
伝統文化と新しい文化の発信	伝統芸能の体験や、光を使ったインスタレーション、回遊式のエキシビション等のテクノロジーアートを活用したイベントを開催	幕張海浜公園(見浜園)

レガシー

- ・「自然や歴史に根差した固有の文化力」、「技術の進展によって生まれた新しい文化力」の再認識
- ・文化芸術の間口を広く、敷居を無くし、日常的な活動へと広げる取組の機会を創出

(2) 美術館リニューアル (2020 (令和2) 年7月11日)

文化面から千葉都心への集客を図るため、中央区役所が移転した跡スペースを活用し、美術館として拡張

■館内イメージ

常設展示室 (5階)



千葉市美術館が所蔵する千葉市ゆかりの作品、浮世絵、近代版画、現代美術の作品等を展示します。

子どもアトリエ (4階)



壁面を使った絵画作品など子ども達がアーティストと一緒に制作・活動するアトリエです。

リニューアル前(平成31年4月)		リニューアル後(令和2年7月)	
12階 ～ 6階	美術館 (7,927.94㎡)	12階 ～ 地下3階	美術館 (17,548.92㎡) ■主な整備内容 (旧区役所フロア) 5階 常設展示室 ワークショップルーム 4階 子どもアトリエ 図書室 3階 倉庫 1階 アンテナショップ
5階 ～ 地下3階	中央区役所		

令和元年5月
きぼーる移転



今後の千葉市経済の活性化に向けて



広域な市内を一層魅力増強するために、その特性的(地政的)に3エリアに区分してブランディング

消費拡大、来訪者満足度向上

エリア別戦略の方向性

ブルーエリア

- ①異業種連携によるコト作り（他エリアとの連携含む）
- ②スポーツコンテンツの有効活用
- ③千葉市住民の海辺への意識醸成

都心エリア

- ④新鮮な千葉市・房総産の多様な食材を楽しめる店舗の拡大
- ⑤千葉市ならではのリピートしたくなる料理・土産品の開発

グリーンエリア

- ⑥鮮度や多品種、年間を通じた一定の供給等の強みを活かした千葉産食材の価値づけ
- ⑦市内飲食関係者との連携による相乗効果

(1) 稲毛海浜公園検見川地区活性化施設整備運営事業

滞留者数の低迷や施設の老朽化が進んでいた稲毛海浜公園検見川地区において、民間活力の導入により、東京湾越しに富士山や夕陽を望むことができるロケーションを活かした施設「ザ・サーフ オーシャンテラス」が整備された。

レストラン・軽飲食施設



レストランテラス席



ホール(イベント・展示ホール)



バンケット(集会場施設)



(2) 稲毛海浜公園施設リニューアル整備・運営事業

開園から約40年経過した稲毛海浜公園において、民間活力の導入により、公園の持つポテンシャルを最大限に活かし、より魅力的で賑わいのある場となるようリニューアル

白い砂浜



BBQ場 small planet CAMP&GRILL



海へ伸びるウッドデッキ(R4.3完成予定)



大人も楽しめるプール(イメージ図)

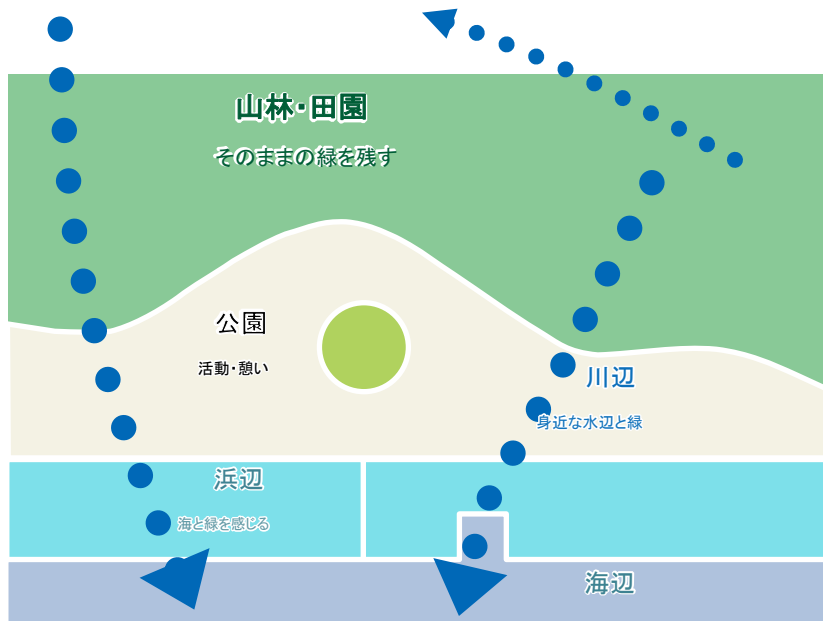


縄文から受け継ぐ豊かな自然と人が共生する潤いのある都市構造

- 加曽利貝塚に象徴される縄文の昔から自然と共生する営み
- 豊かな緑と水辺は、現代に至るまで都市としての大切な礎
- 内陸部の緑、川辺、浜辺・海辺及び公園により自然と人が共生する持続可能な潤いのある都市構造の形成を目指す

みどり

ちばの礎、緑と水辺



凡例	名称	考え方
	山林・田園	<u>緑を残し、活かす</u> ・内陸部に残る田畑や山林、市内に残る貝塚など豊かな緑を保全し活用するエリア
	浜辺・海辺	<u>海と緑を感じる</u> ・海辺の立地を生かした、海と緑が交じり合うエリア
	川辺	<u>人と水辺と緑をつなぐ</u> ・郊外部と臨海部、人と自然、川辺と緑がつながる軸
	公園	<u>緑のランドマーク</u> ・人と人、人と自然などの交流を促し、レクリエーションの場をつくるエリア

2021年1月1日に市制100周年を迎え、オリパラ（2021年）、千葉開府900年（2026年）と、本市にとって大きな節目が続く



市民参加の機運を市の財産（レガシー）に！

節目ごとに生まれる高まりを積み重ね、まちづくりを支える力に

